第 2012-15 号

恵みと真理のニュース

2012 年 8 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 私を治療してくださった神様を賛美します

永遠に滅亡するしかない罪人が神様に救われ、神様を褒め称えながら生きて行けることができたということを考えると私はいつも感謝の気持ちでいっぱいになります。そして、いつも私のことをお祈りしてくださるたくさんの人々のことを思うと私は本当に幸せな人だということをしみじみ感じます。

教会の牧師様の説教を聴くたび、必要な時に力を与えてくださり、神様のために生きる情熱を与えてくださる神様の愛と恩恵に感謝します。また、聖霊で満ち溢れている恵と真理教会で信実な人々と会えるように導いてくださったことを感謝します。このように様々な恩寵を与えてくださる神様を褒め称えます。

私は自分の家を持つために頑張り、また神様にお祈りを捧げました。そして、神様の働きにより、2012年漸く新しいマンションに入居することが出来ました。とても嬉しくて、感謝の気持ちで一杯でしたが、一方、環境が変わったことにより、色々大変な思いもしました。私は新しい環境に早く慣れることができるようにお祈りをしました。そして、自分から積極的に周りの人々に近づき、キリスト信者としてあるまじき行動をするために努力しました。そうしているうちに神様は私の心に慰労と平安を与えてくださいました。

2011年の秋のことでした。健康診断の結果、腎臓の両方に腫瘍と変形細胞が発見され、CT検査をしなければなりませんでした。私の頭は真っ暗になりましたが、ただ一つ、神様にお祈りをしなければと思いました。お祈りする時間が必要だったので、検査は2週間後にすることにしました。区域長をはじめ、区域のメンバー達、周りの人々にもお祈りをお願いしました。そして私は礼拝に出て、心を込めてお祈りを捧げました。牧師様が治療のお祈りで祝福してくださる時には、いつにも増して大きい声で「アーメン」と唱えました。

数日後、母から不思議なことを経験したという電話がありました。私のためにお祈りを捧げていたところ、聖霊様が私の腎臓を見せてくださいましたが、驚いたことにきれいで健康な臓器だったという話でした。CT検査の後、担当医者との面談の時、担当医者は不思議そうに「2週間前は確かに異常があったはずなのに、今回のCT検査では異常なところがありません。これからは定期健診を受けるだけで問題ないでしょう」と言いました。12年前、胃の疾患もお祈りを通じて治してくださった神様は今回も腎臓をきれいに治療してくださったのでした。

「わたしに呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに答える。そしてあなたの知らない大きな隠されている事を、あなたに示す。（エレミヤ書33：3）」という御言葉のように私のお祈りにお答えしてくださいました。神様は私に治療の権能と、また、その恩恵を人々に伝える機会を与えてくださいました。たくさんの信仰的体験を伝道のツールとして使えるようにしてくださいました。神様に全ての栄光を捧げます。

私の娘は海外で一人暮らしをしていますが、その寂しさでとても疲れていました。私は区域のメンバー達と一緒に娘のためにお祈りをしました。まず娘が揺るがない信仰心を持つようにとお祈りをし、積極的に信仰生活をするように娘に勧めました。福音紙を送り続けたり、うちの教会のインタネット放送を通じ、牧師様の御言葉を聴いて信仰を育てていけるようにしました。現在、娘は私よりも強い信仰心を持ち、明るくて活気に満ちた生活を送っています。遠いアメリカで毎日熱心に聖書を読み、夜明けのお祈りをしながら、神様のお答えを体験する喜びを感じて暮らしています。遠く離れていても、神様を信じる心は一つであり、お互いのためお祈りをし、神様からの恩恵を話し合うことができるということが嬉しくてたまりません。息子も私の願いどおり、神様を頼りにし、将来は神様のために働くことに決めて、勉強を続けています。娘と息子のこれからの道を準備してくださり、導いてくださる神様に感謝致します。

神様は私に伝道の実をたくさん結ぶようにしてくださいました。罪人が悔悟し、神様のところに帰ってくるように、救援の恩寵を与えられて生きていく私達が福音を広く世界に伝えることが神様の喜ぶことだと思い、いつも伝道に励みました。一人一人のことを心を込めて涙を流しながらお祈りを捧げました。伝道に伴う苦難をかえって喜びながら感謝の気持ちを捧げました。そうしているうちに、伝道がだんだん楽しくなり、一つ二つ実りはじめました。

神様への信仰と愛が日々深くなり、神様のために働きながら、神秘な幸せを感じることが出来るようにしてくださる神様に感謝致します。神様のところに行けるその日まで、神様の栄光のために生きて行きます。

［信仰コラム］　神様を喜ばせる道

主によって喜びをなせ。主はあなたの心の願いを叶えられる。（詩篇37：4）

人は神様を喜ばせるために創られました。したがって、神様を喜ばせることは最上の価値のあることなのです。神様を喜ばせる道は聖書に記されています。

一つ、神様のために自分が持っているものを捧げなければなりません。ピリピ教会は、使徒パウロ一行に自分の家を福音伝道のために使うようにと提供した紫布の商人であるルデヤとパウロが 収監された牢獄の看守により設立されました。ピリピ教会はパウロの宣教活動を援助し続け、パウロがローマの牢獄に収監された時にはエパフロデトに献金を持たせ、パウロの近くで役に立てるようにしました。パウロはこのような支援と配慮に感謝し、「このことは神様を喜ばせることだ」と言いました。
続いて「わたしの神は、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたのいっさいの必要を、キリスト・イエスにあって満たしてくださるであろう。（ピリピ人への手紙4：19）」と信者たちを祝福しました。神様のために私たちが持っているものを捧げることが、即ち神様を喜ばせることだということを示しています。

二つ、敬虔と敬畏を持って神様を褒め称えなければなりません。信者は震われない国、新しい空と新しい土地を与えてくださる神様を敬虔と敬畏を持って褒め称えるべきです。神様に対し親密感を持つのはいいですが、神様を軽々しく思ってはなりません。神様のことを冗談めかして語ってはなりません。そして、どんな場合でも福音を曲げることに加担せず、妥協しなければ、神様はお喜びになるのです。

三つ、全てのことを神様にふさわしく行うべきです。神様にふさわしく行うというのは神様の気立てにふさわしく行うことを意味します。神様を信じる者としての気立ては善意と正義と真実なのです。そして、神様の意にふさわしく行うという意味も含まれています。この世と妥協せず、何が神様の御旨なのか、何が善であって、神様に喜ばれるかを分別しなければなりません。そのためには聖書をきちんと読み、聖霊様の教えを求めなければなりません。

四つ、神様により、楽しくなければなりません。神様の恩恵を楽しみながら生きていきましょう。罪を赦され、神様の子となり、将来天国で永遠に生きていられるのはすべて神様の恩恵によることです。その広さと長さ、高さと深さを全て測定できないような神様の愛を感じながら生きていきましょう。父なる神様の愛は私たちを救援するために一人子を賜ったほどの愛であり、御子であるイエス様の愛はこの世に来られ代贖的に死なれた愛なのです。神様の権能、神様の約束を楽しんで生きていきましょう。聖書に記された約束を信じて、その約束のために生きていきましょう。そうしたら、神様はお喜びになります。

「神様を喜ばせる道」は即ち、罪人がイエス・キリストを信じて救援を得ることなのです。不信者がイエス・キリストを信じるように福音を伝えることです。神様がおられることを強く信じ、また神様を求める者に答えてくださる神様を信じるべきなのです。さらに、神様のお働きのために自分が持っているものを捧げ、 敬虔と敬畏を持って神様を褒め称えるべきです。全てのことに神様を信じる者としてふさわしく行うべきです。神様により楽しく生きていくべきです。
このように神様を喜ばせる8つの道を積極的に実践するように努力しましょう。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

これが父のみ旨です

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書に啓示された救われる福音は単純で明瞭です．〈誰でもイエスキリストを信じれば救援を得ます〉これが福音の核心です．イエスキリストを信じればこそ救援を得るようになる理由が何ですか？こんな質問に対する答も簡単で明瞭です．〈神様のみこころにかなったからです〉と答えることができます．救援の福音を聞いてどんな人は信じて，どんな人は拒否します．その理由は神様の絶対主権から始まる神様のまことにみこころを認めるのかしないのかであります．神様の主権と意を素直に受け入れる人はイエスキリストを信じることと聖書に記録された救援の真理に対する多様な説明を理解して信じるのに何らの難しさがないです．
信仰生活がお上手になるためには神様の絶対主権を認めて神様のみ旨を収容する過程を先に通過しなければなりません．この過程を通過しようとすれば二つの経験をしなければなりません．

その第一は，自我が壊れる経験です．自分の知識と経験による主張と論理がこなごなに壊れることを言います．

その二番目は，神様の恵みを与えられるようになる経験です．聖霊様が感動感化してくださって心の目を開いてくださるので悟るようにしてくださることを言います．この二つの過程を経験する事に関して詳らかによく捜して見ます．
誰でも神様の前で驕慢の自我が壊れて子供のようにならなければなりません．ある日イエスキリストが子供を呼んで弟子たちのまん中に立たせておっしゃいました．〈…真実であなたがたに言うのに心を入れかえておさなこのようにならなければ断じて天国に入ることができなかろう / だから誰でもこのおさなこのように自分を低くする者が天国でいちばん偉い者だ〉(マタイ18:3,4)
イエスキリストが子供のようになりなさいとおっしゃったことは親に徹底的に寄り掛かることと親の言葉をそのまま信じる特性を置いてなさったので神様に徹底的に寄り掛かって神様のお話を徹底的に信じなさいという事です．ところで言葉は易しいですが実際にそんなことは易しくないです．そんなにしようとすれば自我が壊れなければなりません．他に言わば大目玉を食わなければなりません．こんな体験を聖書の人物は無数に多いです．その中にヤゴブがヤブボック江の渡り場で経験した事件は非常に劇的です．
アブラムがイサクを生んでイサクはリベカを通じて双子であるヤゴブを生みました．わずかの差で次男になったヤゴブは長子には非常に大きくて神霊な遺業が与えられるということが分かるようになりました．

ヤゴブはどうしようが兄さんの長子権を自分が持たなくではいけないと心に決めました．エサウが狩って帰って来ればひもじくて食べ物を捜すことを狙ってあわせて食べ物のかゆを炊いておいて待ちました．そしてかゆで掛け合って長子権を得ました．それだけではなくエサウが狩りに行った時にお母さんと公募してエサウに変装してお父さんに行って長子に祈ってくれる祝福を横取りしました．それによって怒った兄さんの顔面を避けて遠くて遠い逃げることになったし母のおじラバンの家に行って住みこみをするようになりました．しかし神様の助けで巨富になって 20年ぶりに帰郷に帰ることになりました．故郷にほとんど帰った時に調べたらヤゴブが来るという話を聞いたエサウが 400人の壮丁を連れて来るというのでした．ヤゴブは自分の知恵をつくして対備策を立てました．先に二つの群れの家畜をしもべたちが導いてエサウに与える贈り物に先立って送りました．その次に妻子たちを送りました．そしてヤゴブは一人きり残りました．若しくは自分の命でも求めなくてはいけないと言う考えをしたのです．日が暗くなりました．その時誰かヤゴブを急に抱きしめました．ヤゴブ身震いをしたがまっすぐに彼をつかんでいる者が天使という感じがしました．ヤゴブは天使をつかんで祝福してくれと哀願しました．ヤゴブが放れないので天使がヤゴブを打ったから尻骨が脱稿ができました．これからはひとりては逃げだすこともできなくなりました．絶体絶命の危機に処したヤゴブは天使と一緒につかんで取り組みながら泣きながら切に求めました．そしてヤゴブは神様と競って勝つの意味を持ったイスラエルという名前を得るようになりました．その名前のように彼の前に迫って来た問題と危機がたちまちに解決される経験をするようになりました．困境と危機によって神様の前で子供のようになったらその危機はむしろ災い転じて福となすのきっかけになります．
目の前がまっ暗になった状況で神様に対して自我が壊れるようになって子供のようになれば神霊な世界が目の前に開かれるようになります．
イエスキリストがおっしゃるのを〈…天地の駐在であるお父さんがこれを賢くて知恵ある者等には隠して子供たちには現わすのを感謝します / 正しいですこのようになったのがお父さんの御旨です．〉(マタイ11:25,26) しました．聖書を判断して批評しながら自分が賢いだと考える人は神様が分かるあてがないです．何故ならばこんな者等には神様が神霊な事を隠すからです．
イエスキリストが引き継いでおっしゃたのは〈私のお父さんがすべてのものを私に任せられているからお父さん外には息子を知る者がいなくて息子とまた息子の願いどおり啓示をあらわそうとして子が選んだ者の外にはお父さんが知る者がいないのだ〉(マタイ11:27)しました．イエスキリスト様が童貞女の身に孕胎されて生まれたのを信じることができずに創世記に記録された通りの天地創造を信じることができなくて聖書に記録されたしるしを信じることができない理由は彼が自ら賢い育って思うからです．神様の前で高くなったのが低められなければなりません．神様の前で自我が壊れて子供のようになれば聖書を神様のお話で信じるようになります．
そして聖書に啓示された創造主の神様お父さんが知るようになって，救世主であるイエス様が知るようになって聖霊様が知るようになります．

聖書は〈初めに神様が天と地とを創造された〉とお話から始まります．聖書は私たちを創造の主に導きます．初めには 時間，空間，物質この皆の起源で出発点です．創世記 1：1の〈初めに〉はヨハネ福音 1：1の〈初めに〉と聖書原語が違ってその意味も違います．創世記 1：1の〈初めに〉はもう説明したとおり時間の出発点を示すが，ヨハネ福音 1：1の〈初めに〉は時間がある以前の永遠な時を示します．
物質だけではなく空間と時間も神様の創造によって存在するようになりました．このように聖書には神様を時間と空間を含んだ万有を超越して自らいらっしゃる唯一の絶対者に啓示しました．聖書が神様の啓示と感動に記録された本ではなければこのような表現に記録されることができなかったはずです．だから子供のように単純に神様のお話を信じる人は天地の万物が神様の創造によって存在するようになったことを疑わないです．
創造主を信じる信仰の中ですべての事物をよく見れば神様の知恵と能力に感歎と感謝が禁ずることができなくなります．神様の創造した万有は神様の知恵と能力と光栄を現わしています．
詩編の記者が歌ったのは〈天が神様の光栄を宣布しておおぞらがその手になさった仕事をあらわすのだ〉としました．
神様の前で自我が壊れて子供のようになれば聖書に記録された啓示を通じて救世主であるイエス様が知るようになります．聖書は私たちを救世主に導きます．イエスキリストは私たちの罪をお代わりにしようとために人の身を着て世の中へいらっしゃった聖者神様である．という事実が分かるようになります．義と愛の均等な神様が罪人を救援するために決めた通りにイエスキリストをこの地に行かせました．十字架に釘を打たれたイエス様は神様の愛と義を皆満たすようにしました．そしてイエス様を信じるすべての人が罪からゆるされ正義のあるようになるようにしました．イエスキリストが親しくおっしゃるのを〈苦労して重荷を負っている者よすべて私のもとに来なさい私があなたがたを休ませてあげよう / 私は心が温柔で謙遜だから私のくびきを負うて私に学びなさいそれではあなたがたの心が休むことをできるだから / これは私のくびきは易しくて私の荷物は軽々しだから…〉(マタイ11:28-30) しました．
罪と呪いと死亡という重くて恐ろしい重荷を負うことは人間の力ではとり除くあてがないです．イエスキリスト様ばかりがこれをとり除く事ができます．そしてまことに永遠な安息を得るようにします．

皆さんが神様お話の中に信じることができないお話があったら皆さんの自我がまだ徹底的に壊れない状態にあるからです．神様の前ですべての理論を終わって壊れて低くなって子供のようになってください．神様のお話を徹底的に信じて神様を完全に信頼してください．こんな者に神様が自分を現わすのを喜びます．神様が神霊なことを明るく現わします．皆さんはこのような恵みと真理に対して〈正しいです．このようになったのがお父さんのみ旨です〉と声高めて言うようにお願いします．